

2007年10月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



○半田市制70周年記念式典



10月1日、半田市福祉文化会館にて、半田市制70周年記念式典が行われました。70年前に作られた半田市制祝賀行進歌で始まり、市民憲章唱和を経て榊原半田市長の式辞へと続けました。榊原市長は式辞の中で「12万人の半田市民と協働して、今以上に品格のある成熟したまちづくりを進めていきたい」と語られました。その後の市制70周年間の歩みを写したビデオ上映会があり、当事務所が担当した衣浦海底トンネル事業も紹介され、傍聴者は半田市制の発展を担ってきた各事業の説明に真剣に耳を傾けていました。式典は自治功労表彰・一般表彰、来賓よる祝辞と続き、盛大なうちに幕を閉じました。

○衣浦港重要港湾指定50周年記念シンポジウム開催

10月2日に半田市福祉文化会館において、衣浦港重要港湾指定50周年記念シンポジウム「衣浦港の振興と将来のあるべき姿」が関係者約330人参加のもと盛大に開催されました。



伊藤忠彦衆議院議員

主催者である衣浦港重要港湾指定50周年記念事業実行委員会の永島卓副会長(碧南市長)挨拶、伊藤忠彦衆議院議員の来賓祝辞で始まり、国土交通省中部地方整備局の宮本卓次郎港湾空港部長が基調報告「港湾の取り巻く環境の変化」を行い、衣浦港が今後必要なものとして短期的には災害に備えた安心・安全として産業防災の取り組み、長期的には環境として伊勢湾再生の取り組みについて説明しました。続いて有識者、地元政財界の代表によるパネルディスカッション「地域を支える衣浦港の今後の戦略」が行われ、船舶の大型化に伴う港湾整備、交通アクセス網の充実、中部国際空港と連携した観光客誘致などの意見交換が行われました。



宮本卓次郎
港湾空港部長

○第6回はんだ山車まつり

今回で6回目となりました「はんだ山車まつり」が、10月6日、7日と2日間にわたって行われました。5年に一度、半田市内10地区31台の山車が集結する大きなお祭りです。



集結された山車

このお祭りの魅力は、やはり31台の山車が集結することではないでしょうか。5年に一度しか見ることが出来ない31台が立ち並んだ姿は堂々たるものでした。それだけではなく、街中の曳き廻しは迫力満点でした。



繊細な彫刻とからくり人形

山車の特徴は、からくり人形、彫刻、大幕の刺しゅうが施されていることです。からくり人形の動き、彫刻の繊細さ、刺しゅうの鮮やかさ、どれをとっても見物者の目に焼きつく素晴らしいものでした。今年は、過去最高の48万人の見物者が訪れ、市制70周年記念とも重なり、街全体がおおいに盛り上がりました。

☆お知らせ☆ 毎年恒例「川と海のクリーン大作戦」10月28日実施!

10月28日に、『川と海のクリーン大作戦』が伊勢湾・三河湾を囲む河川及び海岸実施されます。私たちのふるさとの象徴でもある川や海が今、ゴミ問題で苦しんでいます。美しい川や海を取り戻し、次の世代に引き継ぐために、私たちにできる川や海のゴミ対策について考えてみよう!という考えから『川と海のクリーン大作戦』は生まれました。平成11年、長良川で始まった「クリーン大作戦」が最初で、現在では11河川2海岸部にわたる『川と海のクリーン大作戦』に成長しました。



昨年度は約38,000人が参加され、2トントラックに換算して350台以上のゴミを集めることができました。このうち、統一実施日の10月22日には約23,000人が参加し、集めたゴミの量は128台/2トントラックにものほりました。
みなさんも是非ご参加してみてください。

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

Mini-WANとは
三河港湾事務所従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 亀の子隊 三河湾上流域の観察会
- 衣浦港浚渫(しゅんせつ)工事の紹介
- 事務所防災訓練を実施
- 2007トライアスロン伊良湖大会
- 管内野球大会開催 三河港準優勝!
- 半田市制70周年記念式典
- 衣浦港重要港湾指定50周年記念シンポジウム開催
- 第6回はんだ山車まつり



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

10月2日、本号でも紹介のありますとおり、半田市内で衣浦港重要港湾指定50周年記念シンポジウムが開催されました。

50年前(=昭和32年)ということ、東京オリンピックよりも7年前、時の総理大臣は岸信介氏、そんな頃から、衣浦港はわが国を代表する重要港湾として、我々の生活を静かに支え、産業の発展のために尽くしてきました(※今年は、重要港湾に指定されてから50年ですが、衣浦港そのものは100年以上の歴史を積み重ねています)。みなとは貨物流通が活動の中心ということもあり、どちらかという地味な存在ですが、衣浦港はその中でも地味なみなとで、華やかな客船やフェリー、物流革命の象徴であるコンテナもありません。



衣浦港
重要港湾指定50周年

しかしながら、電力を生み出すための石炭、私たちの食べ物元となる穀物といった、我々の生活に真に欠かすことのできない物資の輸送活動を支えています。“縁の下の力持ち”という言葉がこれほどぴったりくる対象もないかと思えます。

歴史と伝統に育まれた衣浦港も、老朽化、道路ネットワークの強化、市民が親しめる機能の不足といった課題を抱えるまだまだ発展途上のみなとです。地域の財産である衣浦港をさらによいものにできるよう、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所
〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049
衣浦港事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312
WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○亀の子隊 三河湾上流域の観察会

8月29日、三河湾に注ぐ豊川の源流部において、豊橋河川事務所主催の水生生物調査が実施されました。本調査は、複数の地点で水生生物の種類や生息数を調べ、豊川の水質の状況を確認するものです。



亀の子隊のみなさん



水性生物を調査中

今回は、田原市西の浜地区で清掃活動を行っている環境ボランティアサークル亀の子隊のみなさんが、設楽町の清流公園で調査を実施しました。上流部ということもあり、普段見慣れている三河湾と比べ、水が冷たく澄んでいること、また、カワゲラなどの見慣れない水生生物の存在に参加者は驚いていました。

○衣浦港浚渫（しゅんせつ）工事の紹介

現在、衣浦港の武豊北地区では岸壁（-12m）が供用されています。これと並行し、船の航行安全確保を目的として、衣浦港のメインの中央航路から本岸壁に至るまでの航路泊地を、水面から12mの深さまで浚渫する（=海底の土砂を掘り下げる）工事を行っています。

浚渫工事には、主に、ポンプで海底の土砂を吸い上げる方法と、クレーンゲームのようなもので土砂をつかみ取る方法があり、今回は後者（=グラブ方式）で行っています。使用する船はグラブ浚渫船といい、クレーンやグラブバケット（=土砂をつかむ部分）の大きさを変えることで、あらゆる水深・規模の浚渫作業に対応できるため、国内では一般的な方法です。今回使用したグラブバケットは18m³級で普通車1台がすっぽり入るくらいのサイズです。最大のものでは200m³級もありグラブバケットは大型バス3台分くらいの大きさです。これはギネスブックにも載っており、三河湾でも活躍していました。ちなみに街中の工事現場で見かけるショベルカーでは1m³位の大きさです。



グラブバケット

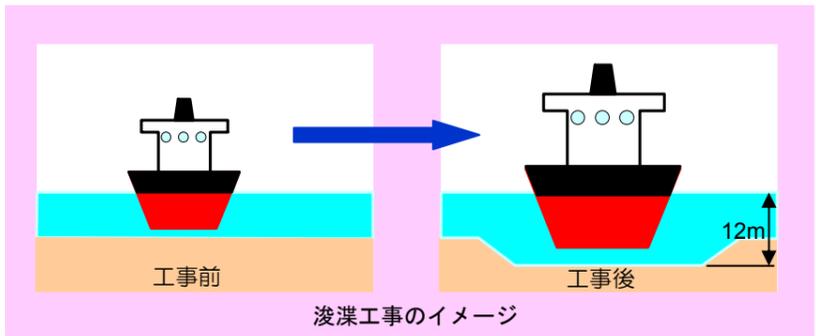
グラブ浚渫船



浚渫作業が終了すると、音響測深器という機器を使用して深さを確認します。この機器は水中に音波を送信し、海底で反射されて戻ってくるまでの時間から深さを計算するものです。これはイルカが超音波を使って水中の状況を確認するシステムに似ています。イルカのものはより高度で、帰ってきた超音波から固さや材質まで判断していると考えられています。

測量が終わると、海上保安庁が発行する海図の補正を行うための手続きを行い、最新の海図が関係者に周知されます。

近年は、物流効率化を図るため船舶の大型化が進んでいます。本工事の実施により武豊北地区岸壁においても、大きな船をより安全に受け入れることができるようになります。



浚渫工事のイメージ

○事務所防災訓練を実施

9月3日に中部地方整備局防災訓練が実施されました。8:30に警戒宣言が発令されたことを受け、事務所内に防災対策支部を立ち上げ、事務所防災職員が集合し本格的訓練が開始されました。その後9:30には地震が発生し、事務所及び現場に被害が発生、電話回線が使用できなくなったとの想定に基づき、衛星携帯電話等を使用して名古屋にある本局との情報交換を行いました。

また、今回から導入された「災害初期情報登録システム」を活用して、庁舎及び現場の被災状況を携帯電話で撮影、同システムを使って写真を送信することで、本局・事務所のパソコンからホームページを通じて、リアルタイムで被災箇所の現状写真や位置等を確認できるようになりました。



本局への被災状況報告訓練



発電機の取扱い訓練

約4時間にわたる防災訓練は無事終了しましたが、防災対策支部の立上げ、特に衛星携帯電話等のセッティングに時間を要したことが反省点となりました。

○2007トライアスロン伊良湖大会

9月9日、伊良湖港周辺（田原市）で2007トライアスロン伊良湖大会が開催され、スイム2km+バイク62.7km+ラン20kmのAタイプとスイム1km+バイク40.1km+ラン10kmのBタイプの2種目に分かれ競技が行われました。



バイク

伊良湖でのトライアスロンは、愛知県立福江高等学校の生徒をはじめ、たくさんの地元ボランティアの協力を得ながら開催されており、1987年の第1回以来、今回が21回目の大会です。

大会にはAタイプ、Bタイプ合わせて898名が参加、869名が完走。鍛え抜かれたアスリートが自分の限界を超えるために泳ぎ、漕ぎ、走る姿はまさに圧巻です。普段は穏やかでゆったりした伊良湖海水浴場が一変、鉄人達の戦いの場となりました。皆さんも参加しましょうと簡単にお勧めできる競技ではありませんので、是非一度ご覧になってはいかがでしょうか。



スイム



ラン

○管内野球大会開催 三河港準優勝！

残暑厳しい9月22日、名古屋市港区の稲永公園球場において、第39回管内野球大会が行われました。大会は中部地方整備局管内の港湾関係事務所など8チームによるトーナメント方式で行われ、我々が三河港チームは1回戦を12対1の快勝で突破、続く準決勝も8月の練習試合で引き分けたライバル清水港相手に打線が爆発し17対3で勝利。

過去38回の長い歴史の中で三河港チームが決勝まで進んだのは9回、そしてそのいずれもが敗退。今回10度目の正直で臨んだ決勝戦・・・



三河港チーム

準決勝までの勢いそのままに初めに3点を先制し、試合の主導権を握るも、その後追加点が取れず、3対4で惜しくも逆転負けを喫し、念願の初優勝を逃してしまいました。しかし、9月後半とは思えない暑さの中、平均年齢30代後半、総勢11名の我がチームは3試合を全力でプレーしました。好成績を収めた充実感とあと一歩届かなかった悔しさを残しつつ大会は幕を閉じました。



打線爆発